

# 2017年上期の回顧と下期の展望

## 回復途上のブラジル経済

### —いま打つべき戦略は

運輸サービス部会 細谷 浩司

2017年8月24日

# 運輸サービス部会の対象業界

- 物流
- 海運
- 航空貨物
- 航空旅客
- 旅行、ホテル
- 通信、IT



# 物流業界

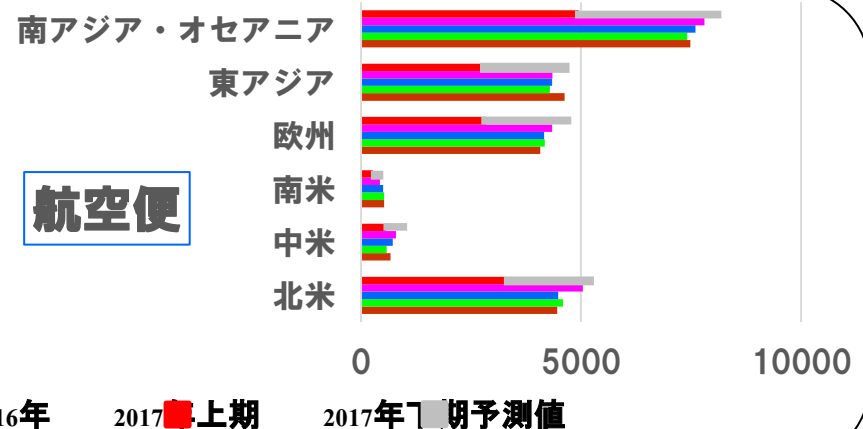
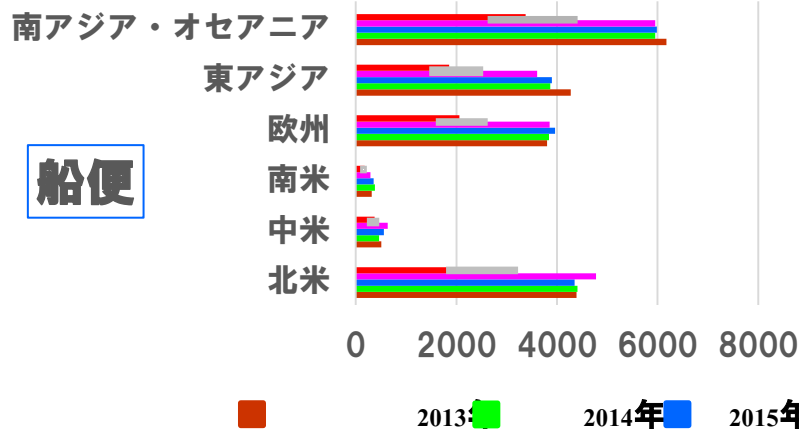
## 2017年上期回顧

- 国内空港の民営化に向けた入札が行われる(3月)
- カーニバル休暇後から徐々に荷動きが回復
- 待遇改善等を求める**ストライキが断続的に発生**(2月、3月、5月)

## 2017年下期展望

- 待遇改善等を求めるストライキの発生が引き続き懸念される
- 急速な回復は期待できないものの、一定量の荷動きは維持される見込み

日本発 各地域向け船便・航空便引越件数動向 (単位 発送件数) 資料：日本通運扱実績数値より抜粋



# 海運業界

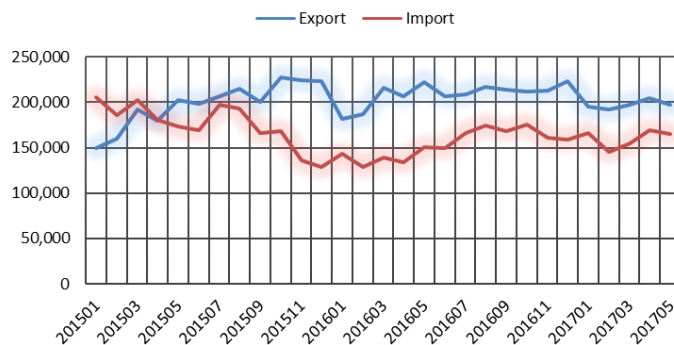
## 2017年上期回顧

- ブラジルの外航コンテナ輸送量は前年同期比にて輸入が15%増加、輸出はほぼ横這いの状態であり、2年間続いた輸入量減少傾向から反転の兆しが見られる。特にアジア-南米東岸トレードでは輸送スペースの需給が逼迫し、**市況運賃レベルは上昇傾向**にある。
- ドライバルク輸送市況は今年3月頃に反転の兆しが見られたが、未だに採算分岐点を大きく下回るレベルで推移。
- 完成車輸送は特にアルゼンチン向けを中心に輸出が強く、輸入が弱い昨年からの傾向継続。

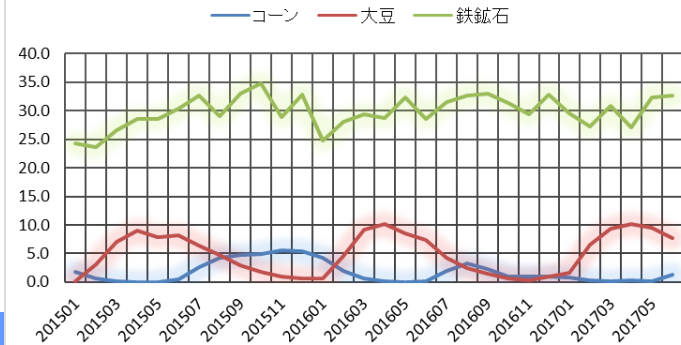
## 2017年下期展望

- コンテナ分野ではクリスマス商戦前の輸入貨物輸送需要増加に対し、臨時船の差し建てを行うことで対処する見込み。業界全体では、コンテナ船社の合従連衡による集約化の動きが継続中。邦船3社によるコンテナサービス統合新会社は2018年4月よりサービス開始予定。
- ドライバルク分野は業界全体の需給バランスは改善の傾向にあるが、マーケットを大きく変化させる要因には乏しく、先行き不透明な状況が続く見込み。
- 完成車輸送は上期傾向が継続する見通し。**ブラジル市場は緩やかな回復基調**も、影響は軽微。

ブラジル外航コンテナ輸送量推移 (TEU)



ブラジル ドライバルク貨物輸送量(単位 百万トン)



# 航空貨物業界

## 2017年上期回顧

- ・ 主要3空港での比較(GRU,VCP,MAO)※1-6月実績比較

輸入量は対前年同期比 45.9%増 (GRU,VCP), 39.4%増 (MAO)

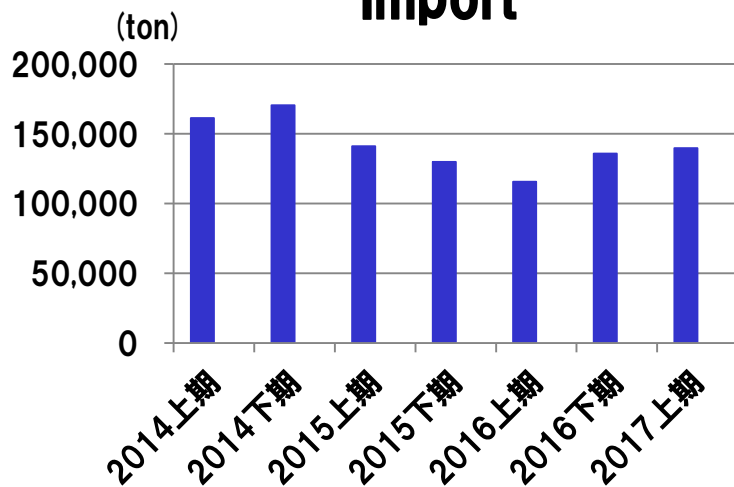
輸出量は対前年同期比 30.1%増 (GRU,VCP), 11.3%増 (MAO)

## 2017年下期展望

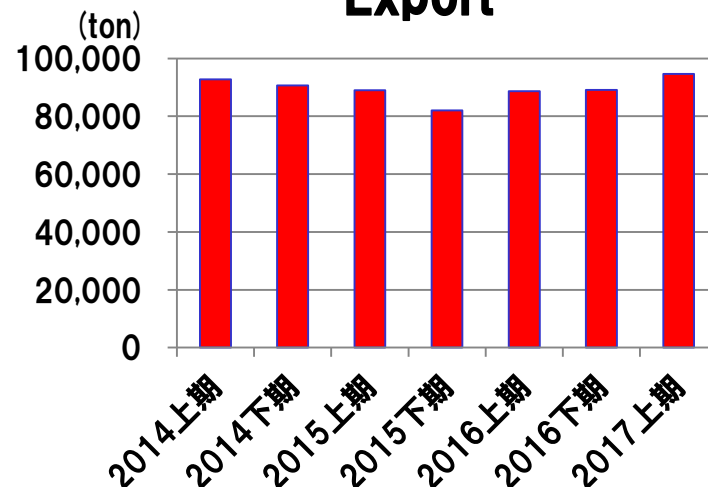
- ・ 輸出貨物量は上期同様に**対前年増にて推移する見込み**
- ・ 航空機貨物スペースがタイトになることが予測される。**早めのスペース確保が必要**
- ・ 新しい輸出申告システム化の導入により、**手続の簡略化が推進される**

## GRU,VCP,MAO 3 空港 航空貨物輸出入取扱数量動向 (単位: トン)

### Import



### Export



# 航空旅客業界

## 2017年上期回顧

- 国内線は、有償旅客キロは対前年+0.6%、提供座席キロは同▲0.6%、利用率は+1.0ptで、需給ともにほぼ横這いの実績となった。
- 国際線は、ブラジル系航空会社計で、有償旅客キロは対前年+11.7%、提供座席キロは同+7.2%、利用率は+3.4pt上昇し、供給の伸び以上の旺盛な需要が続いた。
- 航空各社の受託手荷物の預け入れ基準が変更となったため、利用する際は事前に航空会社のHPやコールセンターで確認する等の注意が必要。  
\* 多くの航空会社が、国際線エコミークラスの無料受託手荷物許容量を32kg×2個→23kg×2個へ変更。

データ元：ANAC（ブラジル民間航空監督庁）

## 2017年下期展望

- 国内線は、LATAM航空やGOL航空による不採算路線の運休・減便も一旦終息した感があり、景気動向にもよるが、下期は緩やかに回復すると思われる。
- 国際線も、下期に主要路線を運休・減便する情報はなく、且つ昨年のオリパラでの特需は殆どなかったため、引き続き前年を上回る実績が続くことが期待される。

## 特記・周知事項

- 6月上旬のカタールと周辺6ヶ国（サウジアラビア、UAE、バーレーン等）との外交断絶に伴い、カタール航空のサンパウロ＝ドーハ線はアラビア半島を南北に迂回するルートへ変更を余儀なくされ、所要時間は約16時間となっている。 \*サンパウロ＝日本間は乗継時間を含め約29～32時間。
- アルゼンチン政府がブエノスアイレス市内にあるホルヘ・ニューベリー空港での国際線運航禁止を決めたことに伴い、ブラジル発着の国際線は全てエセイサ国際空港に集約される（2018年4月から徐々に）。
- 国内線では、機内での無料茶菓サービスが廃止され、有料で飲料や軽食類を販売提供するサービスへ移行する傾向が強まる。

# 航空旅客業界（資料）

## グアリュージョス空港とサンパウロ市内間の空港アクセス鉄道（建設中）



引用元: Folha de S.Paulo

- Engenheiro Goulart からグアリュージョス空港の間に敷設。
- CPTM 12号線のBrásから直通運転の予定。
- 空港駅はターミナル1の近くにでき、各ターミナルへは巡回バスで移動（徒歩可）。

# 航空旅客業界（資料）

参考：2011年～2016年の輸送実績

路線区分	項目	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	
国際線	有償旅客数 (人)	17,886,137	18,949,890	19,763,247	21,328,649	21,587,452	20,934,387	
	前年比 (%)	116.3	105.9	104.3	107.9	101.2	97.0	
	座席数 (席)	23,052,867	24,533,534	25,714,704	27,447,285	28,111,685	26,588,597	
	前年比 (%)	115.8	106.4	104.8	106.7	102.4	94.6	
	RPK (百万人キロ)	105,458	115,050	119,941	130,530	131,559	126,864	
	ASK (百万座席キロ)	131,664	144,505	150,724	163,129	166,986	155,626	
	利用率 (%)	80.1	79.6	79.6	80.0	78.8	81.5	
	内ブラジル航空会社							
	有償旅客数 (人)	5,756,528	5,774,370	6,097,151	6,410,526	7,295,084	7,507,282	
	前年比 (%)	109.2	100.3	105.6	105.1	113.8	102.9	
シェア (%)	32.2	30.5	30.9	30.1	33.8	35.9		
国内線	有償旅客数 (人)	82,080,171	88,717,217	90,252,205	95,928,056	96,191,412	88,686,065	
	前年比 (%)	117.0	108.1	101.7	106.3	100.3	92.2	
	座席数 (席)	116,036,568	122,076,479	120,856,639	121,630,377	123,172,779	113,792,953	
	前年比 (%)	113.0	105.2	99.0	100.6	101.3	92.4	
	RPK (百万人キロ)	81,462	87,047	88,244	93,333	94,381	89,026	
	ASK (百万座席キロ)	116,096	119,338	115,907	117,053	118,230	111,256	
	利用率 (%)	70.2	72.9	76.1	79.7	79.8	80.0	

## <コメント>

- 2014年までは、ブラジルの経済成長に伴って国際線・国内線ともに順調に推移した。
- 2015年は、急激な景気後退により、国際線・国内線ともにほぼ横這いとなったものの（微増）、過去最高の年間実績となった。
- 2016年は、8月と9月にリオでオリパラが開催されたが、更なる景気低迷と汚職による政治空白化が影響し、航空需要は減退した。

データ元：ANAC



# 航空旅客業界（資料 国際線）

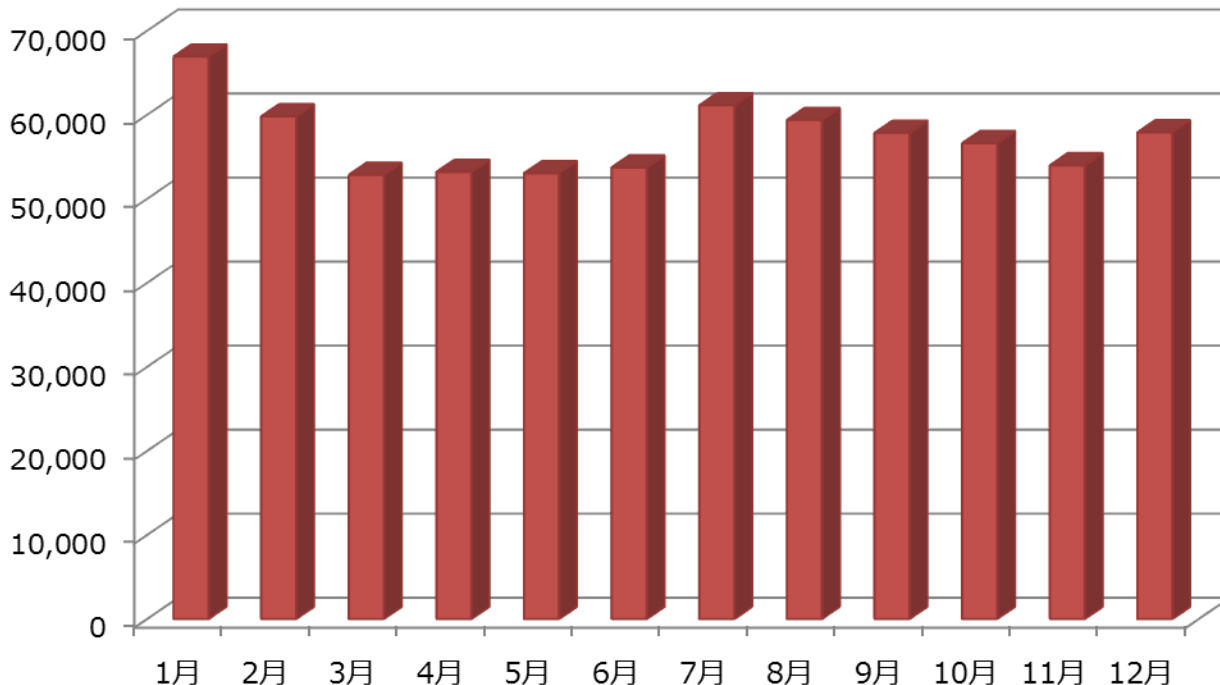
参考：ブラジル国際線の月別輸送実績（2016年版、一日当たり）

月	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)
1月	2,074,011	66,904
2月	1,734,059	59,795
3月	1,638,074	52,841
4月	1,595,160	53,172
5月	1,643,701	53,023
6月	1,611,524	53,717
7月	1,894,464	61,112
8月	1,840,347	59,366
9月	1,735,050	57,835
10月	1,754,469	56,596
11月	1,618,956	53,965
12月	1,794,572	57,889
計	20,934,387	57,198

## <コメント>

- 需要が最も多い月は1月。
- 8月と9月は、リオでオリパラが開催されたが、前年と比較してもプラス効果は見られず、むしろ減少した。

単位：人



データ元：ANAC

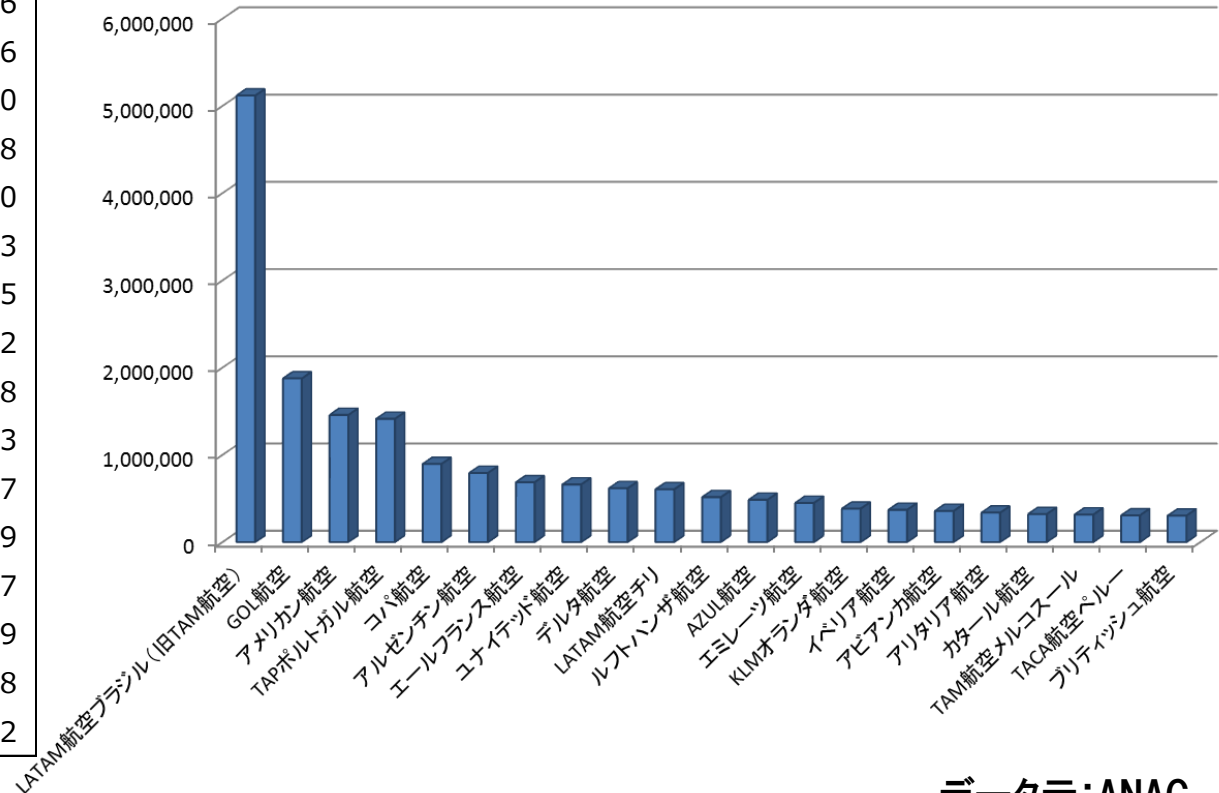
# 航空旅客業界（資料 国際線）

参考：ブラジル国際線の会社別輸送実績（2016年版、30万人以上）

航空会社	有償旅客数 (人)
LATAM航空ブラジル（旧TAM航空）	5,117,864
GOL航空	1,875,039
アメリカン航空	1,456,493
TAPポルトガル航空	1,412,180
コパ航空	895,434
アルゼンチン航空	792,156
エールフランス航空	684,716
ユナイテッド航空	659,580
デルタ航空	617,208
LATAM航空チリ	604,000
ルフトハンザ航空	513,793
AZUL航空	484,365
エミレーツ航空	448,372
KLMオランダ航空	381,118
イベリア航空	368,823
アビアンカ航空	356,507
アリタリア航空	337,029
カタール航空	320,617
TAM航空メルコスール	314,919
TACA航空ペルー	305,208
ブリティッシュ航空	302,072

<コメント>

➤ **LATAM航空ブラジルが圧倒的に多いが、GOL航空も年々実績を伸ばしている。**



データ元：ANAC

# 航空旅客業界（資料 国際線）

参考：ブラジルとの2国間の輸送実績（2016年版、年間10万人以上）

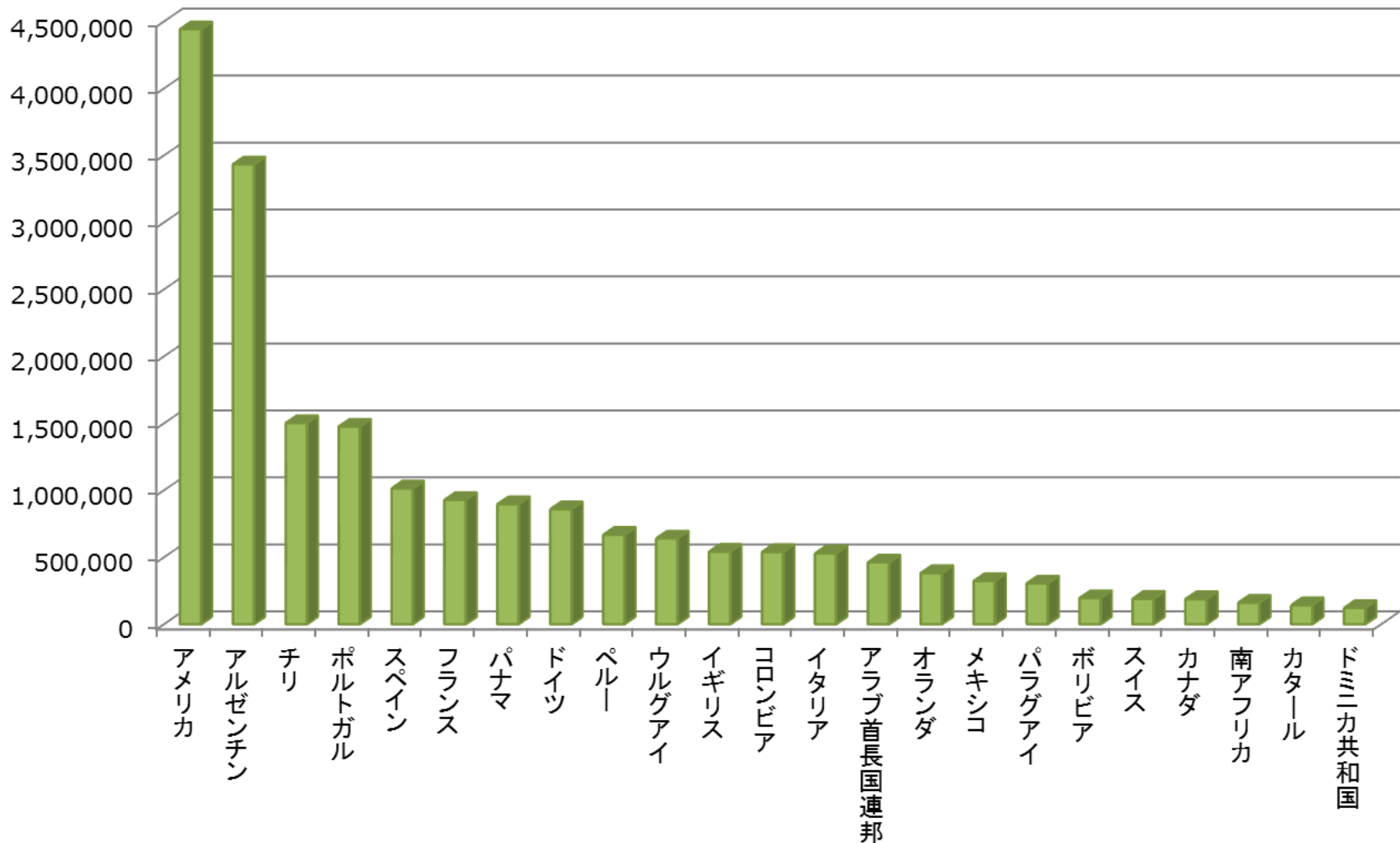
順位	国名 (ブラジルとの2国間)	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)	シェア (%)
1	アメリカ	4,441,234	12,135	21.2
2	アルゼンチン	3,431,994	9,377	16.4
3	チリ	1,500,888	4,101	7.2
4	ポルトガル	1,474,704	4,029	7.0
5	スペイン	1,013,071	2,768	4.8
6	フランス	927,829	2,535	4.4
7	パナマ	895,434	2,447	4.3
8	ドイツ	857,896	2,344	4.1
9	ペルー	667,318	1,823	3.2
10	ウルグアイ	639,046	1,746	3.1
11	イギリス	540,882	1,478	2.6
12	コロンビア	538,773	1,472	2.6
13	イタリア	527,082	1,440	2.5
14	アラブ首長国連邦	460,947	1,259	2.2
15	オランダ	381,118	1,041	1.8
16	メキシコ	322,467	881	1.5
17	パラグアイ	303,587	829	1.5
18	ボリビア	194,259	531	0.9
19	スイス	188,834	516	0.9
20	カナダ	186,376	509	0.9
21	南アフリカ	159,764	437	0.8
22	カタール	140,997	385	0.7
23	ドミニカ共和国	121,590	332	0.6

## <コメント>

- 米国との2国間の航空需要が圧倒的に多く、全体の21.2%を占めている。
- 移民政策等の歴史的背景から、欧州諸国との旅客流動は大きい。

# 航空旅客業界（資料 国際線）

参考：ブラジルとの2国間の輸送実績（2016年版、年間10万人以上）



データ元：ANAC

# 航空旅客業界（資料 国際線）

参考：国際都市間輸送実績（2016年版、年間20万人以上）

順位	路線	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)
1	サンパウロ＝ブエノスアイレス	1,679,925	4,590
2	サンパウロ＝サンティアゴ	1,100,770	3,008
3	サンパウロ＝マイアミ	1,035,155	2,828
4	リオデジャネイロ＝ブエノスアイレス	756,487	2,067
5	サンパウロ＝ニューヨーク	680,120	1,858
6	サンパウロ＝マドリード	659,889	1,803
7	サンパウロ＝パリ	575,726	1,573
8	サンパウロ＝オランダ	517,812	1,415
9	サンパウロ＝フランクフルト	454,629	1,242
10	サンパウロ＝ボゴタ	444,946	1,216
11	サンパウロ＝モンテビデオ	440,183	1,203
12	サンパウロ＝リマ	436,924	1,194
13	サンパウロ＝ロンドン	410,833	1,122
14	サンパウロ＝パナマ	407,053	1,112
15	リオデジャネイロ＝サンティアゴ	372,573	1,018
16	サンパウロ＝リスボン	356,766	975
17	リオデジャネイロ＝パリ	307,462	840
18	サンパウロ＝メキシコシティ	304,534	832
19	サンパウロ＝アスンシオン	295,634	808
20	リオデジャネイロ＝マイアミ	289,063	790
21	リオデジャネイロ＝リスボン	246,816	674
22	リオデジャネイロ＝ニューヨーク	235,515	643
23	サンパウロ＝アムステルダム	223,938	612
24	リオデジャネイロ＝フランクフルト	215,671	589

## <コメント>

- サンパウロ＝ブエノスアイレス間は、年間約1,680千人が利用しており、南米域内で最大の高需要路線である。
- オリパラ開催の影響で、リオデジャネイロ発着南米路線の旅客数は増えたが、同空港発着の北米・欧州路線は昨年より旅客数が概ね減少した。
- ブラジル人にとって、米国マイアミは非常に人気が高く、特に富裕層はマイアミのリゾートホテルや別荘で休日をご過ごし買物を楽しむ傾向にあり、利用旅客の大半が観光目的である。

## (注)

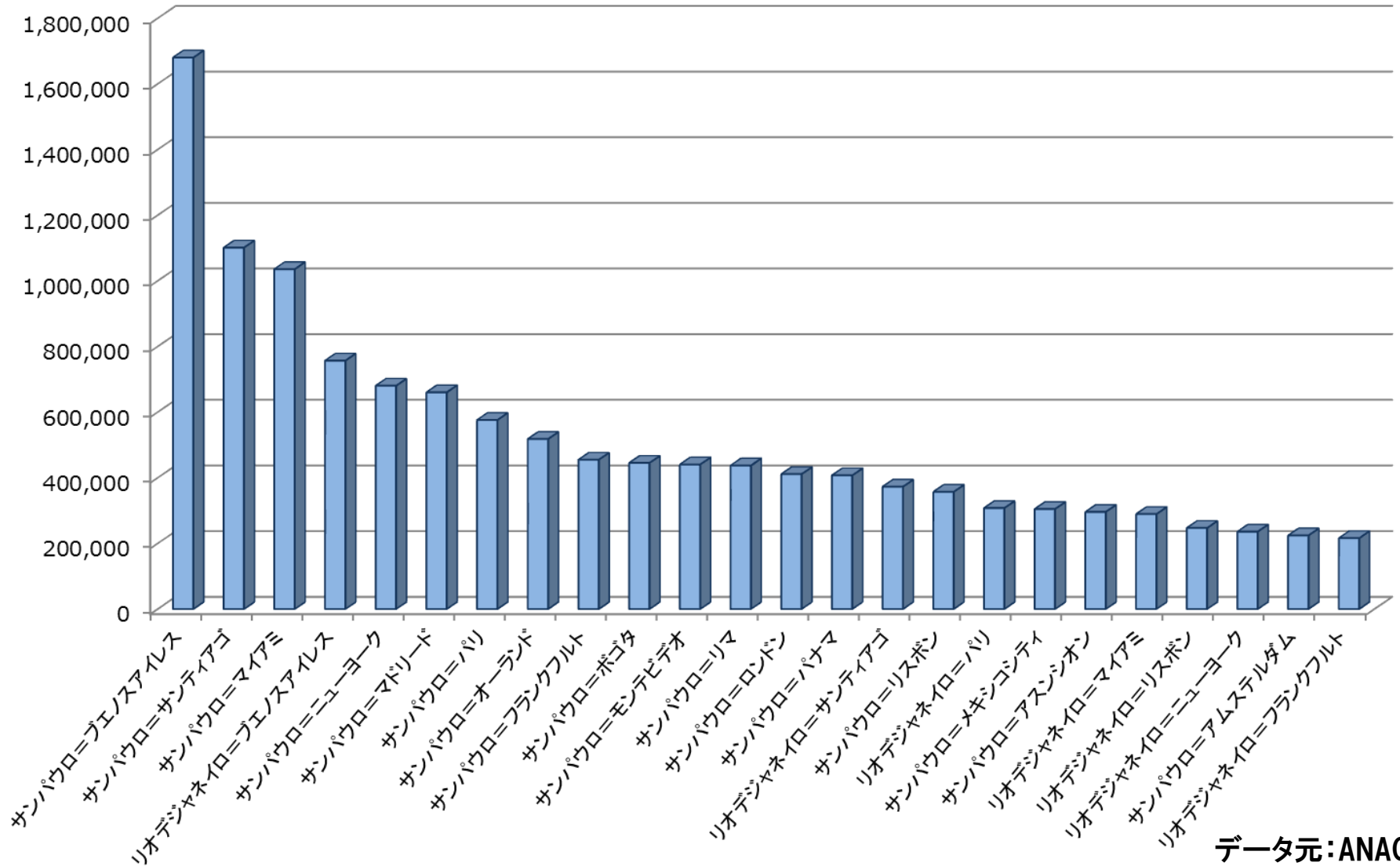
サンパウロ …… グアリュウリオス空港、ヴィラコッポス空港  
 ブエノスアイレス… エセイサ空港、ホルヘ・ニューベリー空港  
 マイアミ …… マイアミ空港、フォートローダーデール空港  
 ニューヨーク …… JFK空港、ニューアーク空港

データ元：ANAC

# 航空旅客業界（資料 国際線）

参考：国際都市間輸送実績（2016年版、年間20万人以上）

単位：人



データ元：ANAC

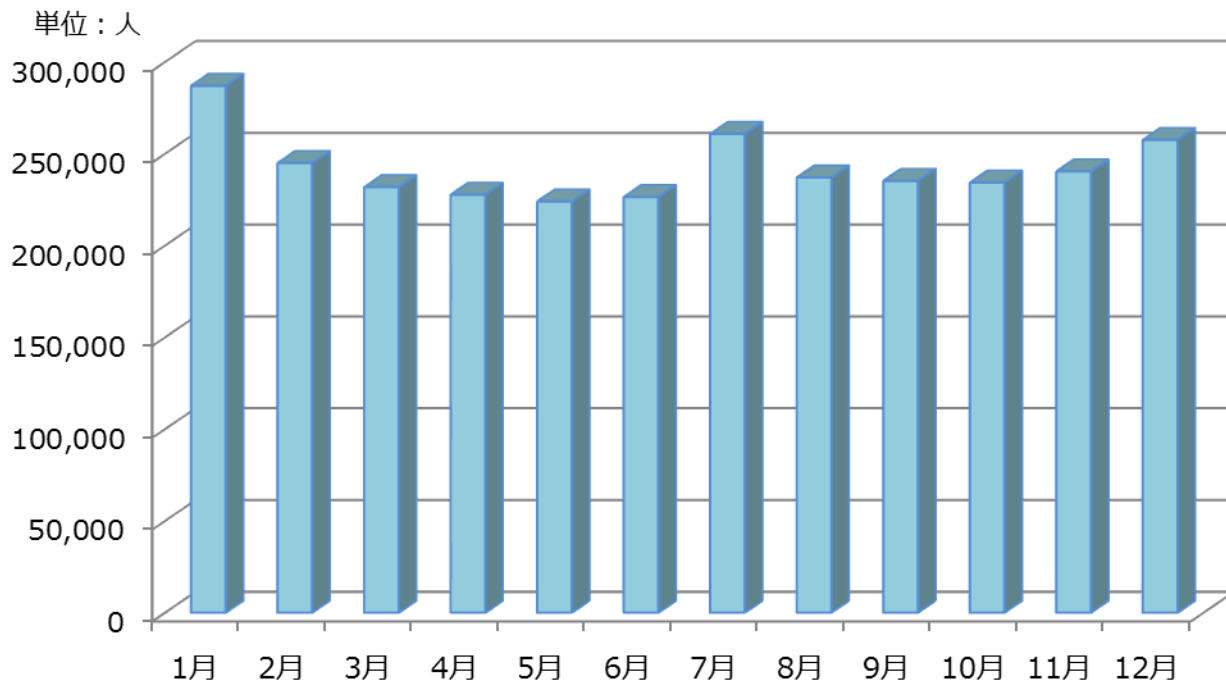
# 航空旅客業界（資料 国内線）

参考：ブラジル国内線の月別輸送実績（2016年版、一日当たり）

月	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)
1月	8,895,722	286,959
2月	7,103,127	244,935
3月	7,182,886	231,706
4月	6,828,657	227,622
5月	6,942,869	223,964
6月	6,792,530	226,418
7月	8,082,396	260,722
8月	7,347,347	237,011
9月	7,055,412	235,180
10月	7,261,630	234,246
11月	7,210,604	240,353
12月	7,982,885	257,512
計	88,686,065	242,312

## <コメント>

- 需要が最も多い月は1月。
- 8月と9月は、リオでオリパラが開催されたが、前年と比較してもプラス効果は見られず、むしろ減少した。



データ元：ANAC

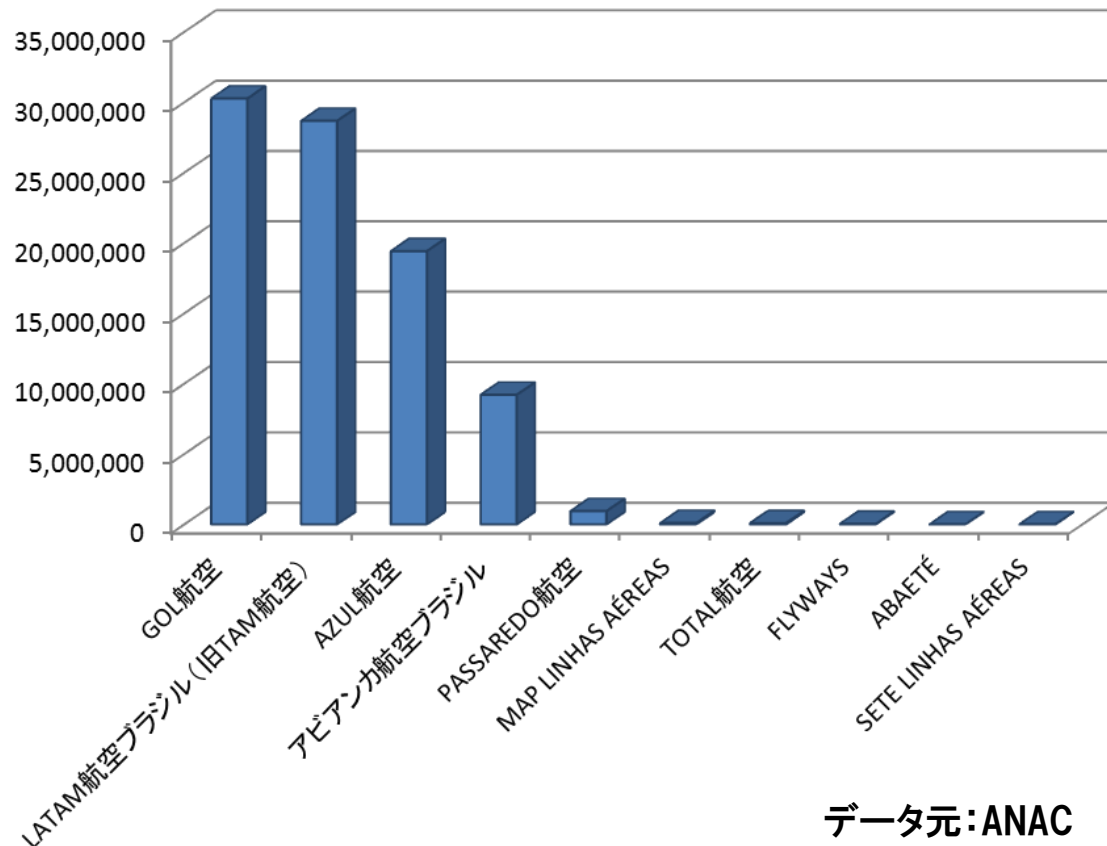
# 航空旅客業界（資料 国内線）

参考：ブラジル国内線の会社別輸送実績（2016年版）

航空会社	有償旅客数 (人)
GOL航空	30,257,754
LATAM航空ブラジル（旧TAM航空）	28,672,019
AZUL航空	19,414,422
アビアンカ航空ブラジル	9,203,011
PASSAREDO航空	937,157
MAP LINHAS AÉREAS	88,149
TOTAL航空	83,369
FLYWAYS	29,937
ABAETÉ	155
SETE LINHAS AÉREAS	92

## <コメント>

- 輸送実績では、GOL航空が最も多いが、LATAM航空ブラジルもほぼ拮抗している。
- 上位4社以外は、主に地域航空会社と不定期航空会社。



データ元：ANAC



# 航空旅客業界（資料 国内線）

参考：国内都市間輸送実績（2016年版、年間80万人以上）

順位	路線	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)
1	サンパウロ＝リオデジャネイロ	8,012,482	21,892
2	サンパウロ＝ポルトアレグレ	4,054,095	11,077
3	ブラジリア＝サンパウロ	3,745,992	10,235
4	サンパウロ＝ベロオリゾンチ	3,523,984	9,628
5	サンパウロ＝クリチバ	3,397,573	9,283
6	サンパウロ＝サルバドール	2,868,709	7,838
7	サンパウロ＝レシフェ	2,372,582	6,482
8	サンパウロ＝フロリアノポリス	2,069,252	5,654
9	ブラジリア＝リオデジャネイロ	1,811,100	4,948
10	サンパウロ＝フォルタレザ	1,741,423	4,758
11	サンパウロ＝ゴイアニア	1,726,276	4,717
12	サンパウロ＝ヴィトリア	1,329,622	3,633
13	リオデジャネイロ＝ベロオリゾンチ	1,263,030	3,451
14	リオデジャネイロ＝ポルトアレグレ	1,225,300	3,348
15	リオデジャネイロ＝サルバドール	1,162,161	3,175
16	サンパウロ＝クイアバ	1,145,105	3,129
17	サンパウロ＝ナヴェガンテス	1,118,755	3,057
18	リオデジャネイロ＝ヴィトリア	979,789	2,677
19	サンパウロ＝カンポグランジ	975,189	2,664
20	サンパウロ＝マセイオ	948,132	2,591
21	サンパウロ＝イグアス	932,802	2,549
22	サンパウロ＝ナタル	865,456	2,365
23	リオデジャネイロ＝クリチバ	840,620	2,297
24	リオデジャネイロ＝レシフェ	835,416	2,283
25	ブラジリア＝ベロオリゾンチ	829,231	2,266
26	ブラジリア＝サルバドール	811,499	2,217

## <コメント>

➤ サンパウロ＝リオデジャネイロ間の旅客需要は旺盛で、全国内線の9.0%を占める。1日当たりの旅客数は22千人弱で、日本の東京＝福岡線とほぼ同規模となっている。

\*東京＝札幌 8,949千人、東京＝福岡 8,198千人

➤ 上記2都市と、現首都ブラジリア、旧首都サルバドール、ベロオリゾンチ、フォルタレザを結ぶ路線の需要は比較的大きい。

➤ 左表から分かるように、国内線においても、ハブ空港は首都ブラジリアではなくサンパウロとなっている。

## (注)

サンパウロ …… ガアリュージュス空港、コンゴニャス空港、ヴィラコッポス空港

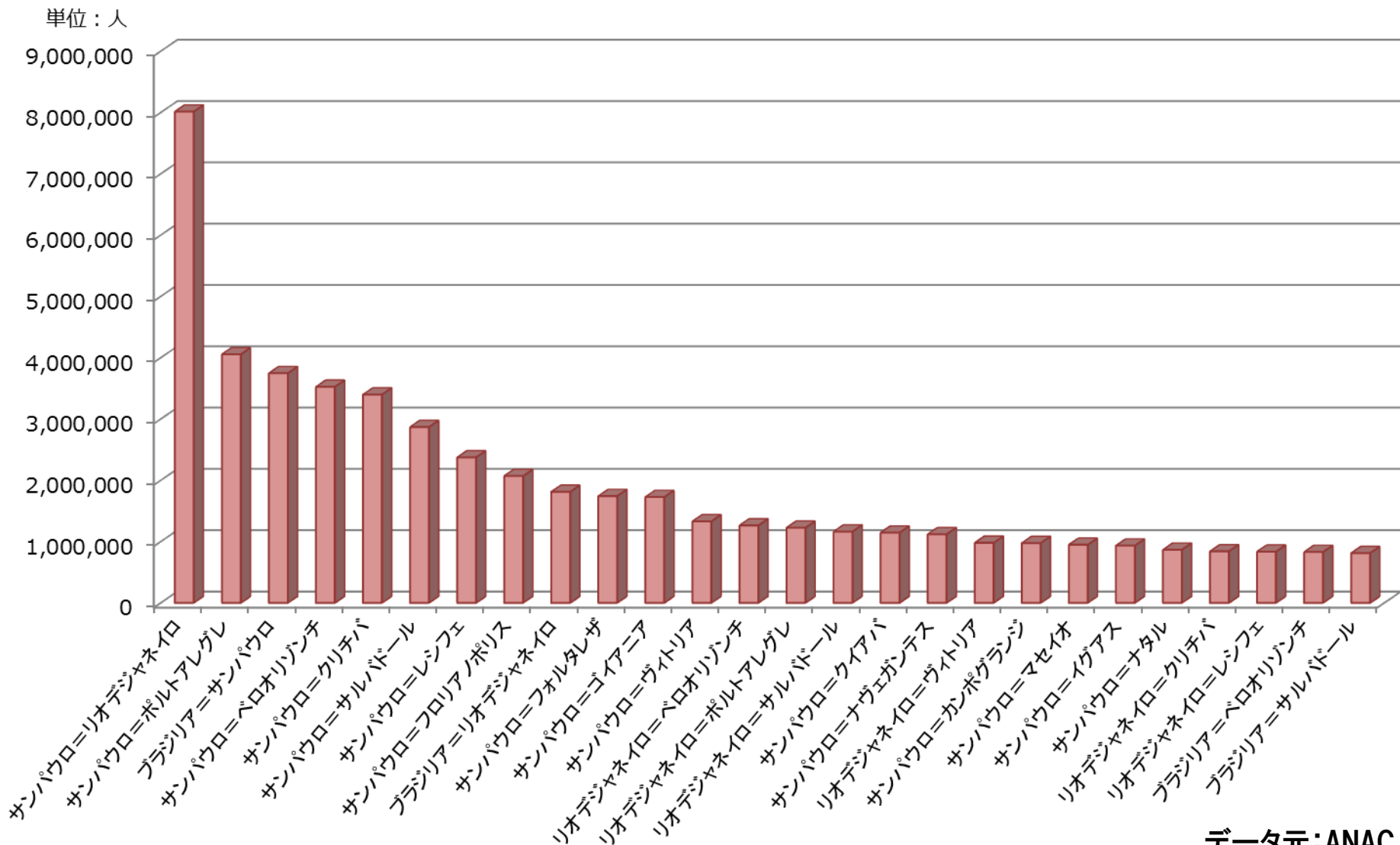
リオデジャネイロ …… ガレオン空港、サントス・ドゥモン空港

ベロオリゾンチ …… コンフィンズ空港、パンプーリャ空港

データ元：ANAC

# 航空旅客業界（資料 国内線）

参考：国内都市間輸送実績（2016年版、年間80万人以上）



データ元：ANAC

# 旅行・ホテル業界

## 2017年上期回顧

	2016第1 四半期		2017年第1四半期		比較	
	売上高（千）	発券枚数	売上高（千）	発券枚数	売上高	発券枚数
国内線航空券	R\$ 892,549	1,618,967	R\$ 1,009,721	1,708,362	+ 13.1%	+ 5.5%
国際線航空券	R\$ 722,665	210,729	R\$ 876,325	254,075	+ 21.3%	+20.6%
国内ホテル		RevPAR* 132.89		RevPAR* 125.86		- 5.3%

## 2017年下期展望

- 民間航空庁（ANAC）の発表によると国内線・国際線を合わせた2016年の年間航空旅客数は2015年の1億1770万人から6.9%減の1億960万人にとどまった。年間の航空旅客数が前年を下回るのは2007年以降初めてとのこと。2017年第一四半期の数字を見ると前年同期比、航空券は国内線、国際線とも改善しているため、2017年下期も前年同期比でさらに改善することが見込まれる。
- 国内ホテルはRevPAR（販売可能客室1室あたりの売上を表す値）が2017年上期は前年同期比5.3%のマイナスだった。昨年の下期はオリンピック・パラリンピックのおかげでリオのRevPARは高かったがその反動で今年下期はリオがさらに大きく落ち込むことが予想されるためブラジル全体の数値も去年を上回ることが期待できない。
- 航空券の販売実績が前年度比プラスとなっているが、旅行代理店は航空券の販売だけが目的でないため、全体的には業績は2016年より悪化している。特に、地上手配やパッケージツアーの販売が落ちている。ブラジル経済低迷と著しい治安の悪化により日本からの観光客は衰退の一方であり、景気回復と治安改善がない限り日本からの観光客が増加する見込みはまったくない。
- 2017年3月25日をもってエティハド航空がサンパウロ路線を廃止した。格安運賃のエティハド航空が撤退したため平均的に日本行運賃が去年より高めとなったが、この傾向は2017年下期も続くことが見込まれる。
- 旅行代理店の数が増え（10年前はカマラ会員だった旅行代理店は5社程度であったが今は11社）狭い日系マーケットで些細な手数料や30日を超える支払いタームをオファーして顧客を取り合っている現状、旅行代理店の経営はますます厳しくなっており今後、無理な経営により破綻する旅行代理店が出る懸念される。旅行代理店の経営状況を見極めることも大切。

## トピックス

- 今まで無料だった飛行機の手荷物の受託荷物が2017年6月以降、自由化された。
- 日本政府が日系四世への就労ビザの検討を開始した。
- 日本政府への要望として「日伯間で早く観光査証の免除協定」と「運転免許証についての協定」を締結してほしい。

# 通信業界（携帯電話・モバイル）

## 2017年上期回顧

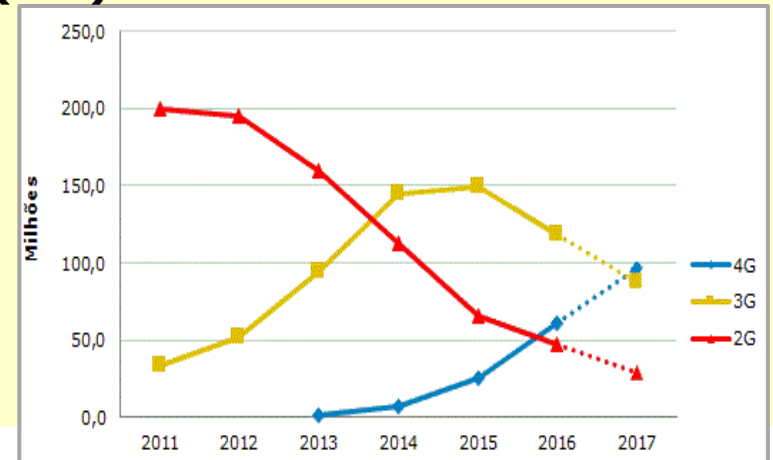
- 全体的な契約者数は、長引く景気低迷の影響に加え、キャリア間の接続料金引下げに伴う複数SIM保有者の減少より、2017年上期で約200万減少した。
- 4G契約数に関しては、2Gと3Gからの移行が順調に進んで、2017年上期で約1,623万増加。ブラジル市場の31%を占める。（表A）

（表A）携帯電話 モバイル契約者数

項目	2017年上期 [単位: 万]	前年比
携帯電話契約数（全体）	24,212	▲5.1%
4G (LTE)	7,633	+104%
3G	10,734	▲23.3%
2G	4,099	▲30.3%
データカード等	1,744	▲0.1%

出典]Teleco HP <http://www.teleco.com.br>

（表B）契約者数の推移と2017年度見通し



## 2017年下期展望

- 4Gへの移行は更に加速し、年内に3Gの契約数を超える見通しである。（表B）
- IoT/M2M（ネットワークに繋がったセンサーやデバイスを用いてデータを解析する仕組み）に関しては、狭帯域・低電力化に対応したNB-IoT (Narrow Band IoT)の運用が開始され、更に普及が進むと見込まれる。
- 会社更生手続きを申請したOi社に関しては、債権者との交渉が継続中。具体的な対処については、2018年にずれ込む見通しである。

# 通信業界（テレコム・データセンター）

## 2017年上期回顧

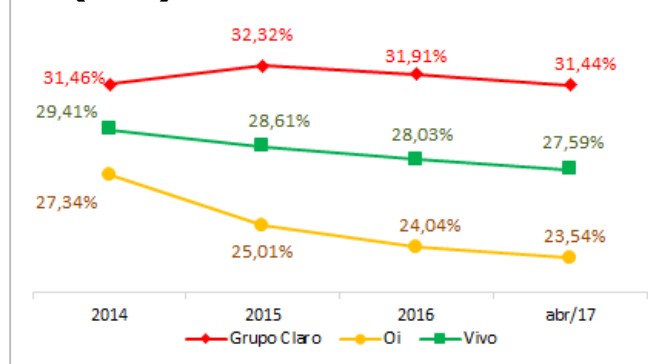
- インターネット普及率： 65%（1億3911万ユーザ）  
※合計ユーザ数としては多いが、人口辺りの普及率は周辺国と比べて高くない状況。（表C）
- ブロードバンドのマーケットシェア： NET31.44%、Vivo27.59%、OI23.54%  
※ブロードバンドシェアは上位3社（Claro,Vivo,Oi）ともに16年から減少しており、その他事業者が台頭してきている。（表D）
- 固定ブロードバンドアクセス数： 2730万アクセス（2017年3月）※前年から5%の上昇
- 平均通信速度： 6.8Mbps（2017年3月）※前年の1.5倍であり、南米諸国では最も高い。（表E）

（表C）南米各国のインターネット普及率

順位	国名	総人口辺りの普及率	合計ユーザ数
1	エクアドル	81.00%	13,471,736
2	アルゼンチン	78.60%	34,785,206
3	チリ	77.00%	14,108,392
4	ウルグアイ	69.40%	2,400,000
5	ブラジル	65.90%	139,111,185
6	ベネズエラ	57.20%	18,254,349
7	エクアドル	56.00%	13,471,736
参考	日本	94.00%	126,045,211

【出典】Akamai HP <https://www.akamai.com/>

（表D）ブロードバンドのマーケットシェア （表E）南米各国の平均通信速度



【出典】IWS HP <http://www.internetworldstats.com/>

順位	国名	平均速度 (Mbps)
1	ブラジル	6.8
2	アルゼンチン	6.3
3	ペルー	6.2
4	コロンビア	5.5
参考	アメリカ	18.7
参考	日本	20.2

【出典】Teleco HP <http://www.teleco.com.br>

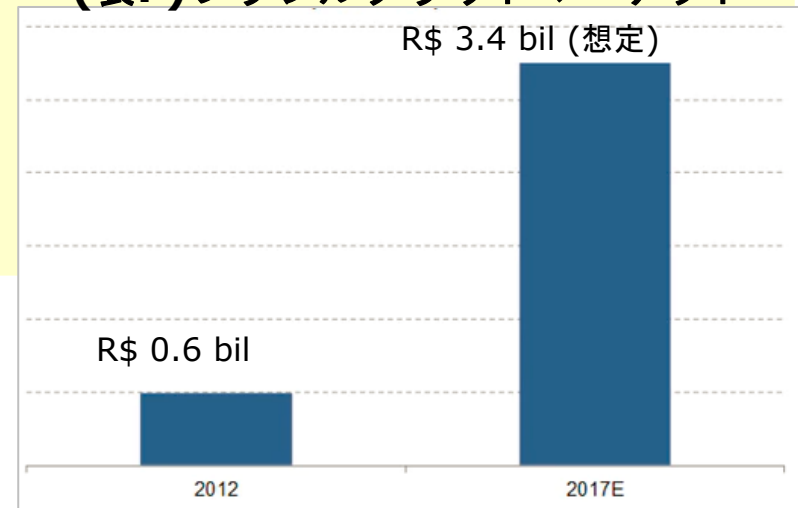
## 2017年下期展望

- 個人のインターネット利用多角化に加え、ビジネスにおけるインターネット経由でのシステム利用が増加する等引き続き利用者の増加が見込まれる大都市中心部以外での高速化/安定化/低価格化が求められている。
- エリア拡大や、ハイスピード回線の提供が継続的に進むことが想定される。
- 既存利用回線のアップグレードを望むユーザが増えていくことが見込まれる。しかし、大容量データ通信への需要増により、帯域の圧迫による回線安定性のさらなる低下が懸念される。

## 2017年上期回顧

- サンパウロ・ニューヨーク間をつなぐ海底ケーブルSeabras1の竣工や、無線通信用人工衛星SDGCの打ち上げ成功など改善に繋がる取り組みがあった。
- SaaS（ソフトウェアのクラウド化）サービス利用拡大を背景に、企業の業務用アプリケーションのクラウド化が押し進んだ。
- ITベンチャー企業が外部資本を得て拡大し続けている。特にフィンテック分野（ITを利用した金融商品やサービス）は2017年上期までで240以上まで増加した。

(表F) ブラジルクラウドマーケット



出典] アメリカ合衆国商務省 HP  
<http://trade.gov/>

## 2017年下期展望

- クラウドやアウトソーシングなど外部へ、ITプロセスを移管する動きは継続するものと考えられる。
- 2017年度中には、クラウドマーケットがR\$3.4billionまで伸びる見込みである。(表F)
- クラウド活用の影響により、セキュリティやマネジメントサービスへの需要増が見込まれる。また、一般企業に加えて、サービス提供事業者向けにハイスペックデータセンター、サーバ、高帯域幅インターネットの需要増も見込まれる。



# 運輸サービス部会主催 セミナー & 視察の開催について

## ICTトップセミナー

開催：10月19日（木曜日） 開始 15時予定（懇親会もしくはコーヒブレイク込みで3時間程度）

場所： ジャパンハウス、もしくは商工会議所大会議室（調整中）

### テーマ（案）①経営視点から考える日本企業の情報セキュリティ

近年、企業の情報セキュリティ意識は急速に高まり、経営課題になっているにも関わらずなぜ情報漏洩事故は繰り返されるのか？ 巧妙な攻撃、脅威を検知し、情報漏洩を防ぐための多重的な対策や、情報漏洩の痕跡を確かめる手法、事故対応チームの組織化など実際の運用事例もご紹介しつつ、具体的な対策をお伝えいたします。

### ②IoT（Internet of Things：モノのインターネット）最新動向

講師：NTTグループの専門家、エバンジェリスト（合計3名）

竹内 文孝（たけうち ふみたか）

NTTコミュニケーションズ株式会社 経営企画部

マネージドセキュリティサービス推進室 室長 セキュリティ・エバンジェリスト

2001年にNTTコミュニケーションズ株式会社において初となるウイルス対策サービスを開発し、その後同社セキュリティオペレーションセンターを設立。海外グループ会社のPMIプロジェクト参画や、世界共通MSSメニューの開発などを経て、2013年NTTコムセキュリティ株式会社代表取締役社長に就任。現在は、NTTコムのセキュリティサービスブランド『WideAngle』の新サービス開発に従事。セキュリティエバンジェリストの一面も持っており、各種セミナー講師などを務める。



物流施設視察会 11月開催予定 場所 乞うご期待

## 回復途上のブラジル経済—いま打つべき戦略は

### 〈為すべきことはなにか〉

- ・ 最低限の機能を残した組織を維持し、品質・キャッシュフローの悪化を防ぎ景気回復を待つ。
- ・ 先への投資能力があれば、システムの強化、社員教育への投資を行う。
- ・ 労働法改正にともなうコスト削減策への一手を検討、採用を行う。
- ・ モバイルを活用した新たな商品やサイバーセキュリティー関連のサービス等の開発による新市場の創出を行う。※セミナー開催予定あり
- ・ 魅力的な商品を創出し需要喚起を行う。
- ・ 日系移民110周年に向けた、経済だけでなく文化・スポーツ・芸術等への様々な分野でのブラジル＝日本間の交流活発化と相互理解を高める。
- ・ ブラジルへの旅行者呼び込みの為、査証相互免除協定の締結、運転免許証に係る協定の締結を行うよう働きかける。
- ・ 国際法にならって標準化を進めるように促していく。(税制簡素化、シスコセルビ等々)



**ご清聴有難う御座いました。**



**運輸サービス部会一同**